

|   |  |    |                  |    |                  |    |                |    |                |    |                |    |                |
|---|--|----|------------------|----|------------------|----|----------------|----|----------------|----|----------------|----|----------------|
| <p>横浜市小学校社会科研究会<br/>6学年部会</p> <p><b>研修会記録</b></p> <p style="text-align: right;">第 4 号</p>   | <p>令和6年10月2日</p> <p>横浜市小学校教育研究会<br/>会長 沼田 留美子</p> <p>横浜市小学校社会科研究会<br/>会長 高畠 聰<br/>同 学年部長 小池 智宏</p>   |    |                  |    |                  |    |                |    |                |    |                |    |                |
| <p>【提案日時】<br/>9月 4日 (水)</p> <p>【会 場】<br/>横浜市立平沼小学校</p>  | <p>【稻荷台小会場】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">提案</td> <td style="width: 90%;">小野寺 征也 先生 (稻荷台小)</td> </tr> <tr> <td>司会</td> <td>茂木 大介 先生 (いずみ野小)</td> </tr> <tr> <td>記録</td> <td>黒田 聖人 先生 (山元小)</td> </tr> </table> <p>【別所小会場】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">提案</td> <td style="width: 90%;">渡邊 亮太 先生 (別所小)</td> </tr> <tr> <td>司会</td> <td>高森 太郎 先生 (大鳥小)</td> </tr> <tr> <td>記録</td> <td>福本 瑞雪 先生 (小坪小)</td> </tr> </table> | 提案 | 小野寺 征也 先生 (稻荷台小) | 司会 | 茂木 大介 先生 (いずみ野小) | 記録 | 黒田 聖人 先生 (山元小) | 提案 | 渡邊 亮太 先生 (別所小) | 司会 | 高森 太郎 先生 (大鳥小) | 記録 | 福本 瑞雪 先生 (小坪小) |
| 提案  | 小野寺 征也 先生 (稻荷台小)   |    |                  |    |                  |    |                |    |                |    |                |    |                |
| 司会  | 茂木 大介 先生 (いずみ野小)   |    |                  |    |                  |    |                |    |                |    |                |    |                |
| 記録  | 黒田 聖人 先生 (山元小)   |    |                  |    |                  |    |                |    |                |    |                |    |                |
| 提案  | 渡邊 亮太 先生 (別所小)   |    |                  |    |                  |    |                |    |                |    |                |    |                |
| 司会  | 高森 太郎 先生 (大鳥小)   |    |                  |    |                  |    |                |    |                |    |                |    |                |
| 記録  | 福本 瑞雪 先生 (小坪小)   |    |                  |    |                  |    |                |    |                |    |                |    |                |
| <p>【提案 小野寺 征也 先生 (稻荷台小)】</p> <p><b>1 提案内容</b><br/>単元名「新しい明治の国づくり」</p>   |  |    |                  |    |                  |    |                |    |                |    |                |    |                |
| <p><b>2 提案者より</b></p> <p>○単元について</p> <p>子どもたちに理解してほしい内容は「明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を図ったこと」である。そのために渋沢栄一を取り上げる。</p> <p>①渋沢栄一はパリの万国博覧会に行っている。当時のパリの様子と日本の様子を比べることで、渋沢栄一や当時の人々と同じような衝撃を子どもたちが受けるのではないか。</p> <p>②渋沢栄一の実際の言葉を聞くことができる。今までの学習では、歴史上の本の中の人だったが、今の生活とのつながりを感じることができる。</p> <p>③渋沢栄一から明治政府へ視点を変えていくことで、明治政府の意図に目を向けることができる。</p> <p>○研究の視点について</p> <p><b>視点①</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の導入でパリ万国博覧会（写真）と日本の様子（絵）を比べることで当時の人々と同様の衝撃を与え、子どもたちの関心をひいていく。</li> <li>・最近、歴史の学習から意欲がなくなっている。粘り強く学習に取り組めるように資料を精選し、意欲をもって学習に取り組んでいけるようにする。</li> </ul> |  |    |                  |    |                  |    |                |    |                |    |                |    |                |

## 視点②（まだ悩み中）

- ・近代化の流れに反対する人がいたのではないか。近代化に対して心配という気持ちを子どもたちから引き出していく。今までの生活と全く変わっていったが当時の人々がそれをどう思っていたのかを考えられるようにしていきたい。
- ・協働的な学習をしていきたい。資料の作成や、関連付けがまだまだできていないので、そこを支援し、協働的に学べるようにしていきたい。

### ○単元構想

ゴールは「明治政府のやった近代化はすごかった」だが、導入で渋沢栄一をすることで「渋沢栄一はすごかった」になってしまふのではないか。また二つのまちを比べる導入から単元を見通す学習問題をどう作っていったらいいのか悩んでいる。

## 3 協議会

### ○視点① 子どもたちに提示する資料の精選について

資料集や教科書、本などから教師が整理して資料を用意する。そこから自分が読み取りやすい資料を選ぶ。教科書で取り上げられている内容が少ないので、教師が用意する資料が肝心になってくる。

### ○注目児について

A児：塾に行っている。調べ学習も塾で学んだことをすぐに出す。他の子と学び合  
いができる。自分のことだけで満足せずに、他の子と関わってほしい。

B児：真面目で一生懸命な一方で、学習に取り組むのに時間がかかる。友達の話の  
流れに追いつけず、友達の意見を聞くだけになってしまう。

### ○単元を見通す学習問題について

政治の体制が変わったことを見通したい。そのための単元を見通す学習問題はどのように作ればいいのか。近代化を伝えるには江戸時代が重要。江戸時代と明治時代の写真を比べながら「江戸から明治まで大きく変わっている」ことに着目し、「どのように変化していったのだろう」を考えるのはどうか。また、渋沢栄一を取り上げるのではあれば、「渋沢栄一は何をしたのだろう」と2つの単元を見通す学習問題があつてもいいのではないか。

### ○渋沢栄一の取り扱いについて

単元の中心に渋沢栄一を置く。ただ、毎時間渋沢栄一を取り上げるのではなく、渋沢栄一を追いつつ、同時に日本の変化（明治政府の意図）を捉えるようにする。

年表は作る。子どもたちに捉えさせていきたいところを年表にして、渋沢栄一が何をしたのかをまとめていく。

## 【提案 渡邊 亮太 先生（別所小）】

### 1 提案内容

単元名「戦中から戦後へ～青い目の人形と見る日本～」

### 2 提案者より

#### ○材について

仕事を日本人に奪われてしまうため、アメリカで日本人を排斥する動きがあった。心を痛めたユーリックと渋沢栄一が互いの国に人形を送った。戦争が始まり「アメリカから来た人形は壊してしまえ」と新聞に掲載された。戦前戦中戦後で人形の扱いが変化した。壊されずに発見された人形を通してもう一度友好関係を結ぼうという動きが始まった。そんな人形を通して戦中戦後の学習を深めていく。

単元を見通す学習問題「人気だった人形の～」が成立するのか否か。

#### ○導入について

- ・実物が横浜にも何体かある。可能であれば借りたい。
- ・写真で紹介し、見た目から入る。「昔は学校行事も一緒に出ていたんだよ」「受け入れられていたんだよ」という投げかけをしていく。でも今は数が少ないというところに疑問をもってほしい。

#### ○児童の実態について

積極的に意見を述べて学習を進めていこうとする児童は10名程度。「今の自分たちと違う」というところで発言できる場をつくりたい。そして自分たちで意見を言える児童を育てたい

### 3 協議会

#### ○単元の導入・材について

- ・日常生活で視野に入っていたものは興味をもちやすい。ただ人形だけで通していくのは難しいので、青い目の人形のあり方を学習問題に絡めていけるとよい。
- ・今回は青い目の人形の学習ではない。「日本の国際社会における役割」というのが目的である。その前段階として戦争の被害を捉えていく。物が壊れた・人が亡くなったということだけでなく、戦争による心の変化について考えることは効果的ではないか。心の変化は見えにくいが、戦争が与えた様々な影響を考えることで、日本国憲法制定などの戦後復興の取組みにもつながっていくのではないか。
- ・戦争の見える被害から入り、単元の途中から人形を見てみてもよいのではないか。人形以外で何を単元の導入に使うか悩ましい。
- ・渋沢栄一が行ったこととして紹介してもよいのではないか。授業者として戦争の被害に目を向けられたらいい。当時の人たち全員が関わっていると感じて欲しい。
- ・青い目の人形の発想はよい。歓迎式の写真を見せて「嬉しそう」と感じさせた上で、「でも今は327体まで減ったのはどうしてだろう」という疑問をもてるといい。子どもたちは戦争で減ったという発想につながらないことも想定される。そ

ここで、年表をあわせて見て戦争に着目できるようにする。そうすることで人形の数の減少と戦争の関連に目を向けられるようなるのではないか。

#### ○過去の実践を通して

- 導入で学区が焼け野原になっている写真を見せた。国民の生活がどのようになったのかという問い合わせをもたせることができた。さらに自分たち同じ年代の子たちの生活の様子を見た。青い目の人形については、国民生活がどうなったかの中で提示しても良いのではないか。子どもたちが普段遊んでいる人形と戦中の人形の意味合いがかなり違うので、そこを考慮して扱っていけるとよい。
- 上記のような導入であれば、単元を見通す学習問題は戦争に関するものになる。予想から立てた学習計画の中の国民生活を見ていく中で人形を扱ってはどうか
- 戦中の別所付近は被害があまりなく、疎開もあまり聞かない。地域の戦中の様子を調べてみて、そこから導入につながるものがあるかもしれない。
- 導入では、実際の戦争写真など分かりやすい資料で入った方が、視野が広がりやすいのではないか。

#### ○材との出会いについて

- 前単元で渋沢栄一の業績の一つとしてふれる。
- 学級だより等で種まきをする。
- 資料箱に入れておくなど、人形を調べたくなるような工夫をしていく。

#### ○単元全体の構成について

- 鎖国で外国との関係を制限し開国した際に周辺国との差が明らかになり、近代化していく中で、他国との差が埋まり、人形交流などを通して良好な関係が築かれた。それが戦争で関係が崩れ戦後はその関係を修復していく、という外国との関係の変遷を教師が意識しているとよい。

#### ○授業者の振り返り

- 人形の出し方については再検討していく。児童が入りやすい導入にしていく。
- 戦争と子どもたちとの溝を埋められる資料を出したい。
- 戦時中の国民生活の中で人形を出す方法をまた考えていく。

<講師の先生より>瀬谷さくら小学校 場家 誠 先生

- 教材研究は、「①単元目標や本時目標を具体的かつ明確にする。②必要な教材を集め  
る③授業展開を考える」という順番が大事。教材優先ではなく、目標を優先させていく。  
そしてそれに合わせて教材を資料化していく。今後はその点を検討していくとよい。
- 大切なのは、「個を育てる」こと。協働的な学びを目的にするのではなく、個を育てる  
最適な場として捉えていくことが大切である。

<講師の先生より>星川小学校 五十嵐 玲 先生

学校現場は手段を目的化することが多い。手段を通して資質能力を育てていかなければ  
ならない。子どもの社会認識をより確かなものにしていくことが目的。教材が目的になっ  
ていないか。学習指導要領に立ち返りながら授業づくりを見直していく必要がある。

「学習指導要領→単元目標→子どもの言葉」というように構想していくとよい。